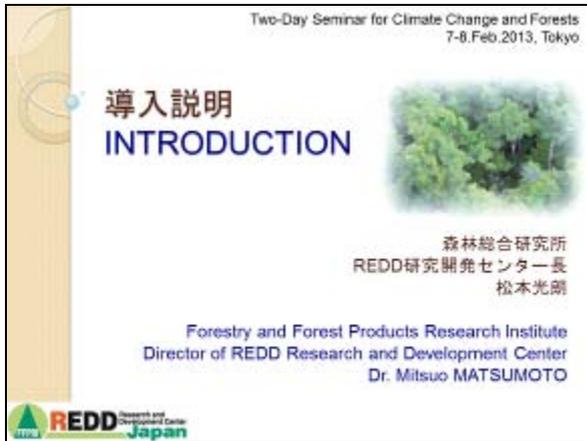


## 導入

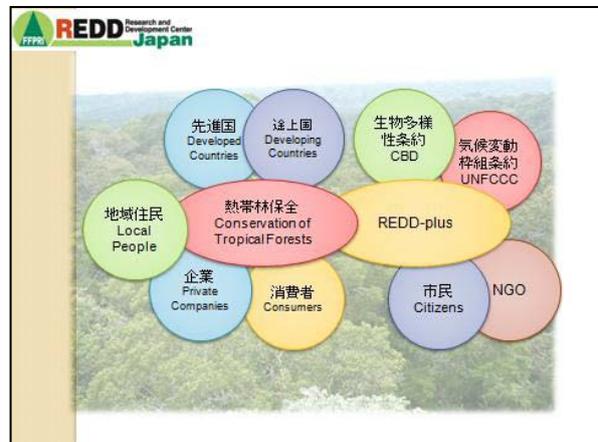
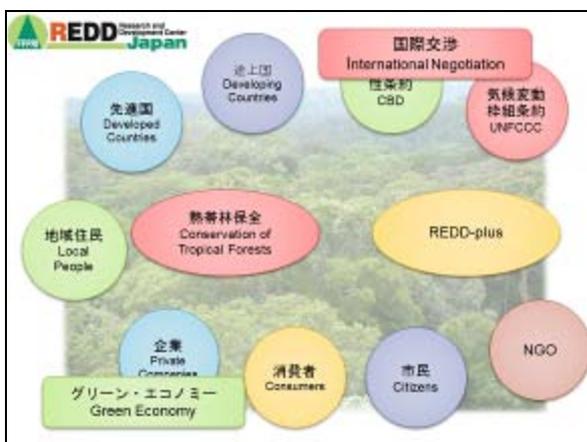
松本 光朗（森林総合研究所 REDD 研究開発センター長）



森林総合研究所は、森林を対象に研究を行っている。私もこれまで日本国内の森林を研究し、京都議定書のための森林吸収量の算定方法の開発に携わってきた。現在、世界では、熱帯林を守っていく方法や、それによって二酸化炭素の増加を防ぐ REDD プラスという考えが温暖化の国際交渉の中心になってきている。

ところが、熱帯林や REDD プラスという専門的な言葉を急に出しても、一般の方には理解できなかったり、遠いことのように感じてしまう。日本として REDD プラスや熱帯林保全の考え方を広めるためには、技術開発や国際交渉だけではなく、国民全体の理解、民間企業の参加をお願いする必要がある。これまでのセミナーはかなり技術的・専門的だったが、特に今日は企業や一般の方の理解を促すようなプログラムを構成した。

今日は参加型セミナーと位置付けている。REDD プラスとは何だろうと考え、これまで民間企業が盛んに行ってきた熱帯での植林から一歩進んで森林保全活動に踏み出していきたい。



熱帯林保全とその方策である REDD プラスという仕組みが、今、国際的に議論されている。そ

れは主に気候変動枠組条約、生物多様性という国際交渉の中で議論されている。その参加者は先進国や途上国など、さまざまである。また、当然ながら熱帯林地域の経済も考えなければいけない。そして、この活動には、国際交渉だけでなく、民間企業、国民、消費者、NGO など、さまざまな機関が関わっている。

ところが、正直なところ、現在はそれぞれがばらばらに活動しているようだ。私はこれをできるだけ早いうちに、もっとタイトな関係にしたいと考えている。そうすれば、森林や植物のような有機的な関係になるのではないだろうか。

各国の関係においてはネゴシエーション、国際交渉が必要だが、企業、消費者、市民、NGO へのアプローチとしては、グリーン・エコノミーという考え方で進んでいけるのではないかと考えている。

The image shows two presentation slides for a REDD+ program. The left slide is titled "プログラム PROGRAM" and lists the following sessions:

- セッション1: 熱帯林の減少とREDDプラス
- セッション2: 企業活動と熱帯林保全
- セッション3: 市民生活と熱帯林保全
- グループ討議
- パネルディスカッション: 熱帯林保全からREDDプラスへ

The English translation of the sessions is:

- Session 1: What is REDD+? - Concept, background, history and main challenges of REDD+
- Session 2: Partnerships with private sector for forest conservation
- Session 3: Consumer's role for forest conservation
- Group Discussion
- Panel Discussion: How business sectors and citizens can stop deforestations and forest degradations?

The right slide features the text "Join us and enjoy!" and a photograph of a group of people sitting in a forest. Both slides include the REDD+ Research and Program Center Japan logo at the bottom.

このような考え方を踏まえて、セッション 1 では、熱帯林の減少に関する状況と、それを防ぐための REDD プラスの仕組みを簡単にご説明する。セッション 2 では、熱帯林保全に対する企業の活動、途上国での企業の活動をご紹介します。セッション 3 では、市民、消費者、国民としての参加の仕方を考えたい。そして、非常にチャレンジングな取り組みとして、グループ討議を行う。本日の参加者を小さいグループに分け、討議していろいろな意見を出していただき、それをまとめながら最後のパネルディスカッションに移りたいと考えている。今日はただの聴衆ではなく、一緒に考えるという立場でご参加いただきたい。